**広報おおさき5月号　2023　No.206**

**今月の表紙**

4月11日、大崎市立古川西小中学校で入学式が行われました。

古川西小中学校は、古川西部地区の志田小学校・西古川小学校・東大崎小学校・高倉小学校の4つの小学校と古川西中学校を統合し、市内初となる義務教育学校として、この春に開校しました。

ピカピカの大きなランドセルを背負って、新しい校舎へと向かう新入生の表情は、期待に胸を膨らませ、笑顔でいっぱいでした。

新入生は、上級生の8、9年生に手を引かれながら、吹奏楽部の演奏に合わせて元気いっぱいに入場しました。先生から名前を呼ばれると、手を挙げ、会場に響き渡るほどの大きな声で返事をしていました。

新たなスタートを切った古川西小中学校。遊びに、勉強に、新しい校舎での学校生活が楽しみですね。

写真：教科書・入学祝品が授与されました

**Main Contents　目次**

04 5月8日(月曜日)新庁舎がオープンします

06 新しい行政区長を紹介します

08 CITY TOPICS

10 大崎市職員募集

11 OSAKI Culture

12 オオサキプレイガイド

14 新型コロナウイルスワクチン接種情報

15 くらしの情報

ゴールデンウィーク期間中のマイナンバーカードに関する手続きについて ほか

24 子育て支援情報 ほか

26 相談コーナー

27 休日救急当番医 ほか

28 Main Dish

**大崎市公式SNSリニューアル！**

5月下旬から、市公式・は、行政情報だけではなく、観光やイベント情報も盛り込み、充実した情報をお届けします。二次元コードから、登録をお願いします。

問い合わせ 秘書広報課広報広聴担当 電話23-5023

**みんなで知ろう！考えよう！行動しよう！Let's!男女共同参画**

vol.6リプロダクティブ・ヘルス／ライツ

問い合わせ まちづくり推進課男女共同参画推進室 電話23-2103

　男女共同参画社会を実現していく上での、重要な概念として、「リプロダクティブ・ヘルス／ライツ」（性と生殖に関する健康と権利）があります。人権としての男女平等は当然のことですが、女性には「妊娠・出産」という男性にはない「性差」があります。

　そして、子供を産むか産まないか、いつ、何人子どもを持つかを、自分で決める権利が女性にはあります。心身ともに満たされ、健康であるためには、自分自身やパートナーの体について、正しい知識と情報を共有するとともに、互いを尊重し、行動することが大切です。

　大崎市男女共同参画推進基本計画では、この概念のもと、ライフステージに応じた健康支援や健康増進のための事業を推進しています。

**パタ崎さんの食育コラム**

その24(最終回)　　5月5日はこどもの日！

問い合わせ 農政企画課世界農業遺産未来戦略室 電話23-2281

こどもの日は、子どもたちがみんな元気に育ち、大きくなったことをお祝いする日。端午（たんご）の節句とも呼ばれていて、元々は病気や災いなどの悪いことを避けるための行事だったんだ。

こどもの日の行事食といえば、かしわ餅や草餅があるよ。子孫繁栄や魔よけの力があるといわれているんだ。たけのこは、成長が早いことから「たけのこのように早く大きくなってほしい」という意味が込められているよ。たけのこご飯や汁物で食べると

おいしいよね。そのほかに、彩りが良いちらし寿司は、エビやレンコン、いくらなどの縁起が良い食材が使われているね。

こどもの日の由来や行事食の意味に触れながら家族と楽しく過ごしてね！

今回でパタ崎さんの食育コラムは終わりだよ。これからも食を通じて健康で心豊かに暮らしてね！

**オオサキワンダーミュージアム　人と大自然の青空博物館**

Vol.37　　　世界農業遺産ブランド認証に米・野菜・大豆の加工品が加わりました

問い合わせ 農政企画課世界農業遺産未来戦略室23-2281

　大崎地域世界農業遺産推進協議会では、世界農業遺産ブランド認証を通して、「大崎耕土」で生産された農産物や加工品のブランド化を図っています。

　今年度からは、新たな認証品目として「加工品（米・野菜）」と「加工品（大豆）」を加え、申請の受け付けを開始しました。「大崎耕土」で大事に育て、生産されたブランド認証品は、認証品ロゴマークが目印ですので、直売所などで探してみてください。

【認証要件】

・「加工品(米・野菜)」

　認証を受けた「米」または「野菜」を主原料とする地域内で製造された加工品

・「加工品(大豆)」

　世界農業遺産への理解を深める講座を受講し、県内産大豆を主原料とする地域内で製造された加工品

※各認証品目の認証申請は、ウェブサイトで確認してください。

**市長コラム　天地人**

ササニシキ誕生60周年

大崎耕土が田植えの時期を迎えました。

　日本の稲作は、今から三千年ほど前に中国大陸を経由して渡来し、日本は瑞穂の国といわれ、米は日本人の主食となり、稲作は日本文化の形成や政治経済において重要な役割を果たしてきました。

　しかし、熱帯原産である稲が、寒冷地である東北地方において定着するまでには、長い苦難の道のりがありました。

　農家や稲作研究者による品種改良、技術改善の努力の歴史です。

　現在、日本で栽培されている稲の品種は、３００品種以上あり、毎年10～20の新しい品種が誕生していますが、品種の現役寿命はおよそ13～15年といわれております。

　その中で「ササニシキ」が新品種としてデビューしたのは、1963年（昭和38年）です。

　二毛作時代から単作多収時代へ、多収から良質米時代へと米を巡る時代の流れが変わり、他品種が失速していく中で「ササニシキ」は、時代の荒波を乗り越え、「東の横綱」「お米の女王」と称され、60年間にわたって現役で頑張り続け、東北の米作りを支えてきた、まれにみる長寿の品種であります。

　古川駅前には「ササニシキ」へのと感謝を込めてササニシキ顕彰碑（少年と母親の像）が建立されております。

　大崎市では、「ささ王」決定戦を開催して、ササニシキ系銘柄を高める取り組みを展開しております。

　人間でいえば還暦を迎えた偉大なブランド米「ササニシキ」の誕生と歩み、貢献に感謝し、新時代を切り拓かれることを期待しております。